



TITLE:

[12月23日 講義] 質疑応答

AUTHOR(S):

ジュリアン ブルドン; ナンダ マウリナ; イルマ ス
ティアワティ; フィルダウス ダウド

CITATION:

ジュリアン ブルドン ...[et al]. [12月23日 講義] 質疑応答. CIAS discussion paper No.25 : 災害遺産と創造的復興 : 地域情報学の知見を活用して 2012, 25: 112-112

ISSUE DATE:

2012-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/228499>

RIGHT:

© Center for Integrated Area Studies (CIAS), Kyoto University

質疑応答

ジュリアン・ブルドン ナンダ・マウリナさんの報告ではデータ・クリアリングのプロセスがありました。それは人間がやるのでしょうか。

イルマ・スティアワティさんの報告では、2011年の災害が意外に多いですが、それはデータカードを作成した年の可能性はないでしょうか。実際には過去に発生していた災害があっても、その年にその災害についてのデータカードが作成されていなかったために2006年とか2007年の災害が記録上少なかったかもしれないので、もう少し細かい説明をしてください。データカードは誰が報告するのでしょうか。過去に報告

されていないためにデータカードから漏れてしまっている災害もあるのではないのでしょうか。

ナンダ・マウリナ データ・クリアリングは手動で、そのプロセスは人間がやっています。

イルマ・スティアワティ 2010年と2011年に被害や災害の件数が多かったのは、実際に大きな地震がそれぞれの年に起こっていたからだと思います。

フィルダウス・ダウド 南スラウェシ州のマカッサル大学災害対策委員会のフィルダウスです。リダさんに質問です。防災学校は実際のところどの程度の効果がみられるのでしょうか。

ムハンマド・リダ 防災教育を実際にするのはとてもたいへんで、たとえば現場では防災の専門用語をどのようにして小学生や中学生にわかるようにするのかといったところで工夫が必要です。それ以外に自分たちが重要だと思っているのは、それぞれの学校が学校としてきちんと防災教育をデザインして実践に移すことです。そのために私たちはあらかじめ五つの指針を掲げて、学校をこの五つの指針で評価すると伝えることで、学校側の自助を促したいと思っています。